

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	池ノ内 真衣子
論文担当者	主査 大島 健司
	副査 山本 新吾
	副査 金澤 伸雄
学位論文名	Propensity score-matched real-world comparative treatment outcomes of Janus kinase inhibitors for ulcerative colitis in patients with and without prior exposure to anti-tumor necrosis factor α antibody(抗 TNF α 抗体製剤の治療歴の有無による潰瘍性大腸炎患者における Janus kinase 阻害薬の治療効果比較—傾向スコアマッチングを用いた検討—)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>中等症から重症の潰瘍性大腸炎(ulcerative colitis: UC)に対して3種類の Janus kinase(JAK)阻害薬 (TFB, Tofacitinib; FIL, Filgotinib; UPA, Upadacitinib) が保険承認され治療に用いられている。しかし、UC 患者の治療における各 JAK 阻害薬の最適な使用法は明らかでなく、特に抗 TNFα 抗体製剤の不応歴を有する難治性の UC 患者に対する有効性については十分な知見がない。本研究は、抗 TNFα 抗体製剤の治療歴の有無を考慮し、UC 患者における3剤の JAK 阻害薬の治療効果と安全性について比較した。</p> <p>兵庫医科大学病院と北里大学北里研究所病院の2施設で TFB、FIL、UPA のいずれかの治療を開始した活動性 UC 患者を対象に後ろ向き研究を行った。主要評価項目は、抗 TNFα 抗体製剤の治療歴の有無に基づいた治療開始8週間後のステロイドフリー臨床的寛解率と臨床的改善率であり、3剤の治療効果の比較には傾向スコアマッチングを用いた。</p> <p>組み入れ基準を満たした274例のうち、抗 TNFα 抗体製剤治療歴を有していたのは145例(TFB 100例, FIL 20例, UPA 25例)であった。傾向スコアマッチング後の解析では、抗 TNFα 抗体製剤治療歴を有する患者において、UPA 群は TFB 群(adjusted odds ratio [aOR], 5.57; 95% confidence interval [CI], 1.42–21.90)や FIL 群(aOR, 9.00; 95% CI, 1.42–57.10)よりもステロイドフリー臨床的寛解率が高かった。一方、抗 TNFα 抗体製剤治療歴が無い患者では、3群間でステロイドフリー臨床的寛解率に差は見られなかった。有害事象の発生率は、感染症に関して UPA 群が TFB 群や FIL 群よりも高い傾向が認められた。</p> <p>以上より本研究は、難治性の UC 患者に対する JAK 阻害薬の選択法に寄与する重要な研究であり、学位授与に値すると判断した。</p>	